

環境学習共催講座「島田川の冬鳥観察会」事業報告

講座名	島田川の冬鳥観察会		
日時	平成24年2月25日(土) 13:30~16:00		
場所	光市地域づくり支援センター 島田川	参加者数	27人

1 スケジュール

- 13:00~ 集合、受付
- 13:30~13:40 開会、あいさつ・講師紹介等
- 13:40~14:40 講話(島田川下流で見られる野鳥について)
- 14:40~14:45 島田川へ移動
- 14:45~15:40 島田川フィールド観察
- 15:40~16:00 まとめ、アンケート、解散

2 活動内容(別紙地図参照)

光市地域づくり支援センターに集合し、主催のひかりエコメイトから開会の挨拶、光市環境部環境政策課長、環境学習推進センター、講師の紹介等が行われました。引き続き、講師の山本健次郎氏による講話のあと、島田川で実際に野鳥の観察を行いました。島田川で見られる冬鳥、留鳥や自然環境の観察をとおして、環境保全の重要性を学びました。

【開会・あいさつ等】



開会のあいさつと講師紹介が行われました。

【山本健次郎氏による講話】



光市在住の鳥類研究家の山本健次郎氏の講話が行われました。

「今年は正月ごろにはいつもなくなるはずのナンテンやピラカンサなどの庭木の実が残っています。ツグミやシロハラ、ミヤマホオジロ、カシラダカなど小型の冬鳥（渡り鳥）がほとんど見られないようです。大型の冬鳥は渡ってきているようですが、渡り鳥が少ないという話は全国的に言われています。今朝、島田川河口付近を散策したとき、今季では初めてツグミを見ることができ、マミチャジナイ、ジョウビタキも観察することができました。大型と小型の渡り鳥では繁殖地が違うので、小型の鳥の繁殖地で昨年、気候かなにかしらの異変があり、繁殖に影響があったのではと推測されますが、本当のことは分かりません。島田川でもだんだん渡り鳥の数が減ってきているのですが、今年は特に少ないようです。」

島田川下流で見られる野鳥について、スライドを見ながら説明がありました。



○ユリカモメ・・・目の後ろの三日月型の斑紋が特徴。足とくちばしが赤い。今季観察は100羽が最高。今日は3羽見られた。エサによって来るのはユリカモメだけ。

○ウミネコ・・・留鳥。国内で繁殖する。くちばしは黄色で先っぽに黒と赤色がある。足は黄色。大分県に繁殖地があり、光市島田川までは直線で60km。夕方、海へ行き、魚を獲って食べる。朝、川に戻って潮で汚れた羽の手入れをして休む。

○カモメ・・・数は少ない。くちばしは黄色で、足が黄緑色。

○セグロカモメ・・・カモメの仲間が一番大きい。くちばしは黄色で赤いのがちょっと。足はピンク。

○オオセグロカモメ・・・セグロカモメより大きい。首に茶色の斑紋がある。

○マガモ・・・水草や藻を食べる。

○ヒドリガモ・・・水草なども食べるが、土手にあがり、土手の柔らかい草も食べる。

○オカヨシガモ・・・オスはおしりの先が真っ黒。

○オナガカモ・・・しっぽが長い。

○コガモ・・・小さいカモ

○トモエガモ・・・1月2日に初めて飛来。顔の色が巴模様なので「トモエガモ」と言う。
日本にはあまり来ない。韓国の慶州南道にある池にたくさんいる。

○ウミアイサ・・・海ガモ。くちばしがとがっている。頭がボサボサ。

○カルガモ・・・渡りをしない。

○カワウ・・・羽の油分が少ないので濡れたらすぐに広げて乾かす必要があるので、しょっちゅう、羽を広げている姿をみることが出来る。

○イソシギ・・・ゴカイや小さいカニなどを食べる。

○カイツブリ・・・潜水名人。浮草の塊に巣を作る。

○カワセミ・・・「空飛ぶ宝石」と言われている。

○コチドリ・・・空からの敵に注意しながら、ちょこちょこ歩く。

○シロチドリ・・・足が黒い。

- イソヒヨドリ・・・オスは腹が赤い。きれいな声でさえずる。
- ダイサギ・・・くちばしが黄色い。
- コサギ・・・サギの中で一番小さい。足指が黄色なのはコサギだけ。
- アオサギ・・・一番大きいサギ。
- セグロセキレイ・・・留鳥、日本固有種。
- ハクセキレイ・・・シベリアから渡ってくる冬鳥。顔が白い。
- シジュウカラ・・・黒い帽子に黒いネクタイ。ツツピ、ツツピ・・・と鳴く。
- ヤマガラ・・・ツツピー、ツツピー・・・と鳴く。夏はひまわりの種を食べる。
- スズメ・・・よく集団でいる。最近少なくなったと言われている。
- ツグミ・・・昔は800万羽くらい獲られて、焼き鳥にされていた。今は禁止されている。
- ムクドリ・・・留鳥。群れで行動する。
- ヒヨドリ・・・渡るのと渡らないのがいる。野菜や木の実など食べ荒らす。
- トビ・・・死んだものばかり食べる。カラスと巣が近いので、雛を食べたり食べられたりする。
- ハイタカ・・・冬鳥。今年は食糧難。
- ハシボソガラス・・・くちばしが細い方。にごった声で鳴く。
- ハシブトガラス・・・くちばしが太い方。すんだ声で鳴く。
- カララバト・・・ドバトのこと。元々人間が飼っていた伝書バトが野生化した鳥。
- ミサゴ・・・魚専門の猛禽類。人の8倍の視力をもつ。空中からダイブして魚を捕り、お気に入りのエサ場（杭など）でゆっくり食べる。島田川では毎日のようにこの捕食のドラマが繰り返されている。

(参加者からの質問)

Q 島田川にはヨシハラがあるが、あの中には鳥がいるの？

A ヨシハラに巣を作る鳥がいる。夏はオオヨシキリ、冬はオオジュリン、ツリスガラという鳥。オオヨシキリは確認しているが、オオジュリン、ツリスガラはいない。

【島田川フィールド観察】 観察、まとめ



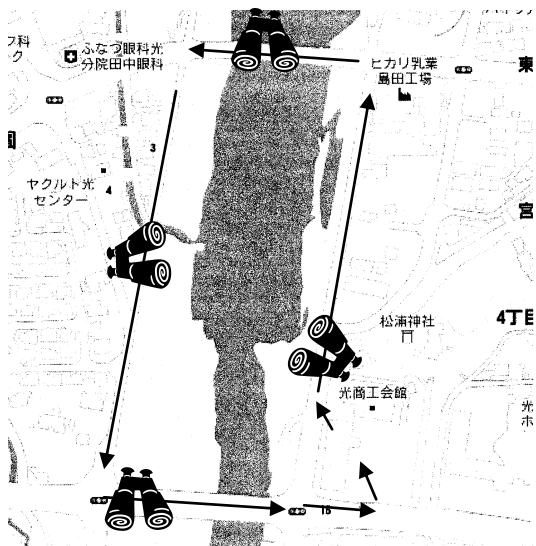
○双眼鏡の使い方を指導。

①裸眼の人は覗くところのレンズ縁を引き出す。

メガネの人は引っ込める。

②目の幅に合わせる。

③つまみを回して焦点を微調整しておく。



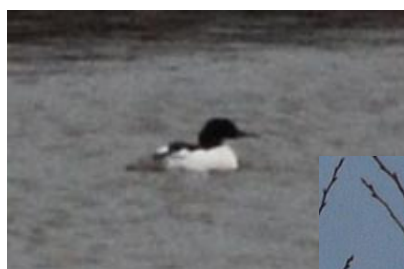
橋から橋までの一区間を一周しながら観察しました。



各ポイントで、講師の説明を聞きながら観察。カルガモ、ヒドリガモ、マガモ、キジバトがいました。



カルガモの求愛行動が見られました。2羽でいるのはすでにカップルになっているという。留鳥はいつも集団で一緒にいるので、オスとメスの模様に差がなくても困らない。ペアになり繁殖が終わると別れて、オスはまた違うメスを探すのだそうです。オシドリ夫婦という言葉がありますが、オシドリも同じで、一生同じ相手と一緒にではないらしい。ちなみに、カモ鍋で食べられるのは、マガモとのこと。



←カワアイサ



カワラヒワ→

島田川の下流域では初観察というカワアイサを見ることができました。ウミアイサと違い、頭の毛はつるんとしていて、雲っていたので黒っぽく見えましたが、天気がよければ、緑色のきれいな色なのだそうです。20秒近く潜ったり、浮いたり、飛んでみたりしている姿をしばし興奮しながらみんなで観察しました。他にはアオサギやヒドリガモ、ハクセキレイも見ることができました。

スズメのように飛んできた4羽は、カワラヒワでした。残念ながら、ユリカモメやウミネコたちは見られませんでした。

○観察できた鳥

アオサギ、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、カワアイサ、トビ、ハクセキレイ、ハシボソガラス、キジバト、ドバト、ムクドリ、カワラヒワ

<まとめ>

当日はやはり鳥がとても少なかったですが、12種類の野鳥を観察することができました。野鳥の観察を続けていると、飛来数などの変化と鳥たちをとりまく環境の変化に気づくことができます。たくさんの人に興味を持ってもらい、島田川の環境保全につなげてもらいたいと思います。

【感想】

山本氏の講話では、スライド写真を見ながらの解説でわかりやすく、島田川では多くの野鳥を観察することができることやそれぞれの食性や習性の違いがよくわかりました。室内にしながら、バードウォッチングできたような感じでした。また、解説で聞いたあとに実際に観察すると、「さっき見た鳥」をおさらいすることができて、鳥の名前をより覚えやすいと思いました。

参加者からは「散歩中、子どもたちに“鳥がいるね”としか言えませんでした。これからは具体的な名前が言えると思うのでよかった。」「鳥の微妙な違いを知ることができてよかった。」「光市の自然環境についても知りたい。」などの感想をいただきました。